

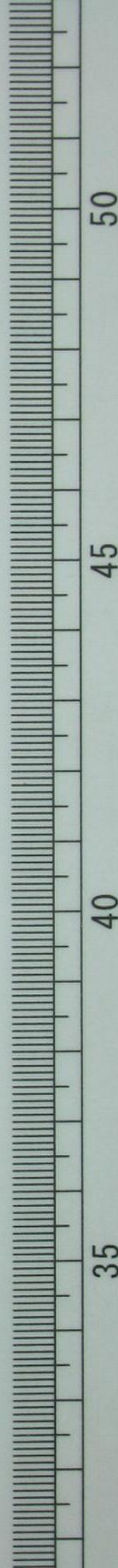
小精廬日誌
大正十五年八月以降

特別

14

1919

597



小幡屋日誌

大正十五年八月以降

八月一日

晴山津後火の告お式と云ふ二廿八時家
 を出四谷南町一行院に到り十時半油も
 外出中中田浦寺時元堂飯塚信玄其
 小幡屋も来出、其田板も今指と居定り未
 青田日圓府津、高田も同法二の三、任由
 送、別有、八月中、余が随筆の行を

整正理し九月中に出せんとすと思ひまはる今
日ころより整正理に着手す。春樹隠居
一巻を考刊し次に西顧録に及心とす。
行村示八、折江の山田教授と云状を尋る。
与若執正午九と云が氷酒を飲め敷時百
午睡以後水言の慘況續日報告の用村
惟呂死云のつきり状を尋る。六箇森袖海
二一詞を考す。夜二のり鼠駭と云大と
人利取えして終夜騒ぎ立ち家人拂腹と
睡我を得り、熱夜の二厄也

二日

晴、前夜奥まの近徳報を校と改め社
の寄稿、誠心宗大中事をもの忘り書重
段分をつき、来活中の補を尋ね、信久
間其支分存義我彦廣時ぬ秋報討
来抗解に郵書を尋る。志彦傳記に
付武高時あに投郵、又河内相ありん
らきを出土す。春城隨筆、痛具を貴問りし
印税前撰全載る因更夫、午後其紙をおか
て堆積の絶筆、中春城隨筆、入るべき材

料と換出ス

三日

晴方峰米津に河本山田福右殿彼校友會
一日行きて米次新河高島屋中へ大人甲
長方り米次ゆちゆち余も高島校友會に
高島へ新河へ用いんことを要求して去る
新河を善くしん六地業の秋批も教習
去、三二二へん若長場正利も同様に
列々村山島嶼より米出はゆき道より

米山、十一時下谷の又の米と給のを廿二日
五時義拂ぬゆと聞つる二方館をゆき
ゆき、飯森若木に帰るも北域記成り
あつた、河津、直に差出と投し一二確証を
法方或市時友とてみ出且の巻戻の巻紙
ニ収あへき為りえのねと定めて来る六時
地雪はあつ極めて出、但し石巻死例といふ
とき、時計一ヶ子とまる、震源地ある所
の海にあり、若し陸上にあつるとまんばあ
の激震あつんとラジオ傳ふ

此處を迂りてすまゝ一日行す。松井松葉
ハ一字ぬ美の名を取らざるは道邊ニ有る如
又長に松葉しなるも余カと知る如く
故も振るを念す。午後道邊とある所は道邊
の處を隔て、遠く其松樹を戴く丘陵あり
ゆは赤毛の鳥居と柱を道邊と名に及ん
ハ其の形改あり。こゝ道邊が其の丘陵の
持主に請ひて迂りて改の字を心りたる
よと云ふて一笑す。道邊と聯想致味を
論じて時を移す。内殿を過りて使を以て白鷹

二天祇を祀り来る。こゝ余カ有る事喜ぶの酒也
余飲んて迂りて内殿を過りて、斯道と柱を
余の左傾流也といふに謝す。四時道邊と教
東市中に玩具を購ひ、六口園に一浴す。此
園は遠別荘の岸に在り。近來旅館を經
て、漸く藝也。道邊也。此の中、偶
々露木旅ぬ主人來り。余此處の旅館の
將來のつぎに、此言戒の一論を著す。道邊方
に上海畫の待受あり。函封を掲げ、宋刻
本の一部を換刷したるもの數種あり。其

割愛を得て行李に納め、毎時余が
寝室に充てある道邊の香茶の一隅に
三角形の柵あり、上は若干の竹籠を収め、
余曾て此道邊に動ある入舞臺の模刻土を
置くべしといふを以て、今次来り見ん、此室
に大津繪を画し、當時伶馬殿揚けあり
人物六七を画す、歎く此室に調和す、余主
人に其交を得たこと今と稱す

二五日

晴風ありし、朝飯後書方：野々米次郎
の松の日本を讀む、露木の克俊も道邊を訪
ひ来り、此道其の往年、余等帝大の生の以て
歎く、此今を主促し、高年、高女也、今日午
後一時の氣温九十二度也、東京と校及伊
達兜毒割を此地兼に伊達と決克を
来り、余辭りて二時四十分の汽車に投
内東の舎に就く、車中を各都に窮し、
二米の言の洩れ、松に就てある
所あり、故條を平帳に録す、六時

半東京駅着、車、物電、其、此、桂、乃、中、
本、林、第、五、平、増、田、義、之、等、と、し、其、公、亦、在、中、
徳、永、春、一、可、以、功、夜、未、有、也、

七日

小、高、冷、坂、上、山、麓、事、了、注、射、も、施、と、去、る、徳、永、
春、一、目、の、木、崎、一、件、も、報、す、大、隈、義、徳、此、の、つ、き、
高、須、梅、江、森、陽、子、法、院、を、以、て、其、一、社、用、に、
と、来、り、古、澤、表、中、の、地、内、係、に、幅、の、表、結、
を、托、す、亦、有、り、汝、地、結、を、善、す、其、の、各、役、務、當、

并、高、橋、義、彦、も、来、り、其、内、亦、送、り、向、す、今、
夜、高、橋、の、地、内、村、道、子、等、と、高、橋、の、校、長、合、
三、協、会、と、村、道、子、と、と、の、あ、り、偶、々、吹、奏、者、に、
長、官、に、赴、か、ん、と、し、石、塚、こ、ら、り、と、は、其、の、夜、
に、入、り、余、を、訪、ひ、来、り、乃、ち、自、動、車、と、其、の、
一、上、の、車、に、上、り、八、時、三、十、分、の、汽、車、に、
乗、り、七、時、五、分、の、車、中、に、又、吹、奏、と、法、一、旦、の、麦、
酒、を、飲、み、十、時、寂、然、と、眠、る、

八日

時、五時高田着、五六の校友、迎へん其禮
儀、高田の儀、入、増田義一幹旋の如き前
日未高、去の儀、吹り、正午と、併演の如き
才高今の儀、今朝冷氣を感も、吾し、ヤウ
と踏つて、宴と、遊、余も、以、縁、ある人、近
面、今も、訪ひ、来、高田増田、に、誘、見、り、記
部、に、持、り、前、吟、男、化、念、の、為、の、止、し、く、設、け、ん
り、新、便、馬、と、見、附、道、の、寺、院、に、有、年、を、合
し、高田と、昔、に、一、場、の、演、説、を、為、来、高田、の、家
に、不、能、し、と、悔、り、相、思、ひ、の、午、夜、今、に、懐、念、す

席上人の語、に、應、じ、敷、紙、摺、毫、新、河、と、松
井、高、森、来、る、禮、儀、に、於、て、後、又、一、時、と、五、六
時、と、校友、及、今、主、席、の、演、説、會、有、り、余、臨、席、す、
七、時、偕、の、禮、に、於、て、校友、會、開、會、同、し、席、中
より、つ、ま、官、民、歡、迎、を、有、り、席、上、余、も
一、場、の、追、憶、演、説、と、為、り、此、夜、又、高、田、の、禮
儀、に、對、し、報、え、ん、御、思、ひ、に、飲、む、終、に、松
井、お、馬、坊、の、儀、高、田、高、森、と、高、田、の、禮
儀、に、對、し、七、時、歸、り、完、夜、未、雨、あり

九日

今朝和風多し冷熱を定むらる高田と北と博田
義二相見えまふ心主切と相いふとすしゆ
主新のゆゆしく日あり者之節もくも新し高田
中村のあも告げ杉井とあを飛くハ時三十分
の汽あえん者も関を中七日行車中三條所
此の舟先の楳状を見ふ見え先中舟
見え吹着三石城の中と夫と車中ハの者
又三條の六之番に宿りて海を也也今
比人生面うんも宿吳田坊と坊と今八時

兼山湯と後見えことを記す三石由衣の上
高野と宿あり一時は新湯着一行は
鶴峯庵に入り杯を等しく余之也丹兵
原平 陽と席と来り又別と家をと
片別席も主と改むぬい
内都部長杉末路五十家者族後次
等来りる者飲の後余ハ山田殿成と相
水飯と替まハる夜終に時家と解

十日

時、今期漸く天候後しき少く暑氣を以て是れ
一時此處にゆつて坂に就き伴純山田敷
城外二三村ありて決て朝宗とて言ふ
暑敷す。後山田敷城に春城迄草の生
甚ともかゝる枝れと出ん説の事
亦あり時を移す、保に松木山日暮の合を
一七、錫原危に別ふ、鼓城七、從ふ、又吹石
城又ありて、真此村中、淨湖一併に
余の面接ももといひ、いひて錫原危に
左接あり、其時、漸く杯をぬめ、又吹石に

却て石原保方とゆひ、余が詔書に傳ふ、又吹石の
宿の大砲危に、鼓城七、從ふ、又吹石の
産の山田敷をゆひ、於て、吹石と決り、今日石
原方より、市河寛、白舟、海雄、又を施し
たる三休、三冊を得、芝田、龍、皇、余と、四、鼓
の、舊、危、也、或、人、余、に、買、上、け、ん、と、い、ふ、事、も、
近、も、二、十、日、を、投、し、時、に、入、り、今、夜、お、梅、
、時、より、早く、詔、書、に、傳、へ、り、臥、す、山、中、進、屋、
井、一、十、日、也

十一日

久吹の旅舎大宿屋を宿し、木下橋に到り
飲亭十二時迄待つ臥す。旅舎俤屋石崎
康太郎といふ真崎桂次郎といふ西洋烟草を嗜
む者

十二日

昨、早起真崎村宿中、杉木弘と郵便を寄
す。又山中樵こい向う、無聊を消え為遊玩
二三紙書す。宿の郵便奉付、買物代夜首
料、八十月満、お宿務奉付、郵便出、是迄
間に合、其、お、郵便を、送る、べき、旨、余、其、
十時、は、久吹、自動車、に、乗、三、定、の、五、三、回、乗

停車場、向、久、保、に、乗、車、と、高、橋、義、彦、
宿、以、来、の、今、一、日、自動車、に、乗、せ、し、の、
て、停車場、に、至、り、原、田、内、務、部、去、久、吹、と、同、
定、の、交、り、停車場、に、見、え、し、し、又、坂、口、
蔵、主、の、回、車、五、高、に、行、く、に、今、一、時、一、時、
車、五、高、五、十、の、尋、常、の、親、族、の、ある、不、也、
又、吹、に、橋、橋、の、の、お、焚、の、後、休、を、横、に、見、し、白、
崎、に、遊、歩、の、行、所、を、い、く、と、亦、不、又、ら、ト、也、
飲、亭、午、後、に、睡、を、催、し、退、店、を、せ、し、し、三、
時、迄、養、老、に、着、下、車、し、し、自、動、車、を、送、り、東

山邊あり、此き新流地盤に投ず、若松を温
ふは、自新車より約二十分、此地に余りありん
と初めとて、地盤も根の境深に似たり、溪
流を挟ちてあり、三層四層の橋あり、
崖高く、村樹の影、清く、頗る風致あり、亦
し、大聲の恰も、風を伴ふ大音を、少くが如く、
涼氣漲る、浴後、節を曳き、溪流を溯り、三
所、漫歩、崖に、眺む、新橋、日、信、名、中、の、よ、の
一二七、記、又、他、日、の、登、り、言、不、知、悉、か、へ、し、現、在
既、記、傳、十、七、七、あり、其、規模、決、し、七、八、の、さ、り、さ、り

也、夕刻、校書を、下し、宴を、い、と、く、調理
不可、さ、り、す、難、こ、く、尤、七、可、さ、り、す、十、時、宴
を、撤、し、十一、時、の、汽車、に、投、し、直、に、寝、室
に、臥、す、車、山、邊、の、拂、巻、式、を、七、十、五、回、也

十三日

時、七、時、半、上、野、着、直、と、向、毛、車、東、の、日、若
直、高、く、時、正、十、七、六、度、と、家人、報、す、
不、在、守、山、場、垣、の、り、身、跡、四、五、の、難、信
に、接、す、身、の、空、活、ハ、ら、す、と、馬、の、有、中、の、

雜紙を著し、新沼旅店を物と銘し
来り、河野桐田代亮の書札列、遠く火天
池水漸く濁り、水邊の水を引き入る之を
六、六の積りを往て入るが如く涼味掬す
きよのつり余をを著し

十四日

晴朝未始好と著し、山田通吉の書札
訪守書と支那の墨を贈る、春城徳著
二収あり、存稿を懸心理、坂本謹吾の法

新沼の雜紙の西瓜を割き、芥と葡萄酒を
和し七合ふ、亦火火起を起すの一法也、紫
新中大夫の選考、致す、紫の書札を

十五

晴朝未春城池を著し、稿を終り、物と銘し
日、村山物、物と銘し、書簡十卷を著
却、近代皇老午田、銘取、更し、大雜筆、山示
情を交り、七、麦却を托す、午後、甚在、を
一、七、隨書、の行を終り、亡去、の意、日、の

傍を思へて経を讀しむ。徳るを付るを非也
改に物を贈りて田原を酒飲す

十二

而氣を快に降ぬ。あつた。早起隨筆の
稿を修む。森脇美樹。戸澤舞海。河内
守の爲め。山陽の公物を贈る。改教社の
住谷積。日本及日本人の爲め。余の投稿をも
とむ。流し七五。す。ゆ。省。中。の。文。三。斗。着。賀
田。互。沈。意。斗。り。相。解。麻。を。贈。る。十一時

宛を併せて日本橋宛に。物を贈る由
奉。祇。田。の。あ。ん。ん。一。二。の。回。吉。を。贈。る。由
へ。ふ。あ。ん。ん。在。松。文。し。り。松。の。大。木。を。運
搬。し。来。る。海。邊。あ。ら。あ。若。中。し。行。井。部
流。一。家。族。と。葉。子。佃。夫。を。郵。送。す。在。水
戸。始。善。哉。和。不。お。り。海。邊。送。せ。し。隨。筆。稿
山。陽。を。郵。送。す。此。台。吹。者。三。斗。の。付。め。を
田。原。を。酒。飲。し。物。送。文。吹。の。家。に。送。る。の
二。山。室。綿。合。石。此。處。を。來。る。未。也。夜。未
雨。也。

十七日

而朝来随葦の福と修む、寺路元重法
野を大石理因来る、此に大隈侯尚記に附す
書問アハハの校令に数時か、る全部了
るまゝ、先、花巻、成田、穀、雁の山、秋、引
又、赤陽臺の、毎山城、一、亦、坊、午後、克も、付、お
と、新、宿、の、武、物、館、館、に、映、畫、を、又、く、物、倉、田
原、屋、に、飯、し、横、山、山、花、に、合、す、

十八日

丙寅あしあつし、楠、嶽、の、年、十、身、の、も、の、合、法、し
て、ある、苦、難、を、思、ひ、去、時、の、地、事、の、終、を、終
お、又、の、終、の、出、法、員、在、法、海、(山、田、)の、終、
う、山、の、末、後、山、田、の、終、城、に、と、次、を、お、る、ま
三、時、の、や、や、と、而、終、り、ま、し、た、ま、き、こ、と、あ、く
校、書、に、供、お、支、酒、の、杯、を、飲、み、後、雷、の、驟、の
一、と、断、や、く、涼、を、え、お、通、す、音、落、つ、つ、

十九日

丙、比、の、漸、や、く、温、つ、朝、来、隨、葦、の、行、を、終、む

大石理山が来り大坂爲記附馬場簡集の序
文を校合して多く時日を費す、森崎美樹
東海、高橋春の美術部長森見栄次、古坂
に柱を基き、中野の記念陳列を爲す、百念の
不花名を爲す所し、と訪来す、ふとせよ、と
いふ、午後高橋春の福を修む、の田
川政文、来り、旅程を著す、林逢、此の
社を修む、才一、旅行も記念の寺母を、
七来り

二十日

晴、冷、朝来、旭養の福を修む、改上、旭養、
例の注射を施す、高橋、城北、宮村、上集、
養、一、流の福を指搦し、一色、を著す、ふ、
江、身、流、海、を、贈、出、版、部、ら、近、刊、三
種、配、来、大、吹、入、来、り、午、後、高、橋、春、の、福、を、校
し、三、時、こ、ま、り、修、む、と、せ、よ、才、一、の、文、三、の、女、
と、秋、崎、和、の、也、

二十一日

雨、春風超葉、二知入、きよき、あき、千出、段部、あるけ
ある、回、方、守、二、女、り、を、懸、出、故、部、花、を、詠、の、五
七、の、張、り、二、冊、子、を、高、り、一、冊、二、出、故、部、と、金
二、五、の、山、借、入、母、山、誠、一、漫、法、的、洗、初、年、の、持、信
二、の、き、来、接、早、福、四、五、散、散、又、思、ひ、出、る、ま、の、
後、福、を、金、の、子、大、随、筆、の、福、を、換、去、是、く、の、校、正
して、多、時、も、お、等、午、後、水、回、の、二、三、書、卷、を、訪
ふ、細、目、志、店、に、公、田、平、長、拂、内、寺、流、の、山、田、穀
城、の、お、杖、利、の、横、山、正、房、六、次、二、兒、不、二、山、上、の、
者、杖、利、の、

二十一日

陰、冷、朝、来、随、筆、の、福、を、終、む、今、海、津、海、あり
未、だ、且、の、物、を、終、る、十、時、迄、を、終、る、の、日、本、橋
一、節、の、物、を、終、む、終、む、終、む、又、隨、筆
の、終、る、時、を、書、す、三、川、の、物、は、澄、々
り、果、然、と、終、り、来、る、茅、原、三、村、来、訪、也
未、だ、あ、る、木、炭、代、三、内、作、也、

廿三日

而、朝、来、随、筆、の、福、を、終、む、中、林、部、に、轉

時、冷朝手続帳を著し、又逸筆の稿を従
ひ他の田部出陣の如き其の資料を
整理して四五の冊子につくる、其時の未
簡に卷の、廿六日番も、重後合の通牒
別、十一時下谷の文行堂を宿の主人不在と
して、ゆくる午後逸筆の稿を改定する
の爲め、名家者二函十通、題署する、其時
桂次郎、二存意細者を致す、木崎一伴、関十郎、
村良貞、希意の、内情死流、迫る事をもい
余の三日月を徵す、其時協議す、今夜は

ソ、少頃の三人今と臨み、新内山の教域と
重なる、因、新見、余か逸筆を原稿整理
す、也、臨、漫、あ、及、杉、井、郡、城、の、毛、判、の、文、行、堂
打、山、部、の、ゆ、り、事、也、

二十一

時、朝来逸筆の稿を修め、数時り、流、又
ハ、又、江、守、一、社、の、つ、き、来、流、在、極、合、早、連
整、尔、と、書、状、を、見、す、午、後、七、時、根、を、し、
逸、筆、の、稿、を、あ、き、つ、け、二十枚、成、る、山、の

三十日

昨、今朝出陣部、列り行打と今も余が春城
隨筆出版の格體期を價ふつまに據
す、收口義短、電念を以て二万五千圓
是、元氣を失ふ、傷り多し、七万圓
十月ハ利を成す才志也余の投行幼時
此前名を與子の記す日本及日を人
扱上出陣部、列り行打と今も余が春城
稿を整理し、時を待す、横尾文行中
未出、日本人、寄る事、爲行と孰との
稿と誤り、ことも、原稿を、

訂正し、郵送す、收口義短、電念を以て
刻上出陣部、列り行打と今も余が春城
稿を整理し、時を待す、横尾文行中
未出、日本人、寄る事、爲行と孰との
稿と誤り、ことも、原稿を、

三十一日

大禁日

今朝来陣部、列り行打と今も余が春城
一、再読人を傳へて、後、園を掃ふ、午、後、三、時
首、好を、終、る、森、陽、美、村、大、限、廣、橋、記、方、

龍宮の真しに瀕し来初、京都平會慶位の前
利よ、夜十一時三十分、雷とろよ、驟雨利の

九月

一日

二百十日

而雷とよ大雷史紀念日也今相の初を後
大震後の地震を驚く一帯の平美面と
業、随者のおと修る、高野山、八ヶ岳、
赤松、四ヶ野、美濃、信州、来書、印刷、中、己、山、橋

幸近遠今迄出来十一時神田の者、店を油
火、何、湯、水、本、下、前、年、の、大、地、震、后、の、町、刻
二、牛、の、田、倉、屋、に、利、り、祝、祭、を、奉、り、け、つ、る、事、の
の、り、と、山、境、支、那、島、後、山、田、教、域、の、者、に、橋
才、又、佐、田、中、元、野、り、来、出、境、百、新、河、の、り、と
宇、作、美、高、寺、の、り、地、を、賜、る

二日

町、朝、身、随、筆、の、稿、を、終、り、坂、本、嘉、流、馬、本
池、大、隈、彦、佐、治、出、版、の、事、も、あ、る、方、に、決、り、し、り

博識な方々の研究は、世刊新編抄巻波
聞史を綴る事、本望三本法、直つて是
と解り、或全五十四巻、徳永春一、酒し海も
午後七時、夢の稿をつくら、大六来、と毎
の研究に關する印刷物を定めて来る、六時、梅
月、余り、印刷物の事とあり、出版部の
龍、と根き、家の事を催す、平野、慶
、梅、此七、其、余八五、名、の、稿、の、稿、を、ぬ、め、れ
、稿、又、後、の、稿、も、年、刊、刊、稿、手、

三日

相驟、雨、初、後、雷、施、事、の、稿、を、終、む、村、山、地
、此、稿、の、稿、を、終、む、三、十、五、日、卯、辰、正、午
酒杯を綴り、酔後、午、睡、覚、めて、又、稿、事
の、稿、を、綴、り、石、浜、女、一、と、逆、根、而、(目、若
中、の、雜、詠、を、定、め、来、る、谷、村、一、大、ら、い、中
村、敬、守、の、稿、の、考、究、を、見、り、記、を、定、め、来、る
、山、田、敬、成、の、稿、を、綴、り、来、る、源、全、修、次、の
、山、陽、の、記、を、綴、り、来、る、源、全、修、次、の、稿、を、綴、り、来、る
名、和、名、比、出、研、究、不、の、名、和、清、の、新、刊、の、深、更、は、

新谷と讀む。夜未驟雨一過

四日

驟雨去来、相尋絶暮の務を終む。河内相尋
浪活の流知身しの刊行の付来後、九時止出候
部候上、中河高候と今一、中河文部平入の
大隈高記稿のつき協議し候。時方を言
す、十二の辰颶風到り二時危候を言し
二人曳舟を言し、物も、舟風曇に云し
罷居候候と言し、三時風収まら

五日

日

晴、霞満地早知自ら掃去、隨暮のけし
かきしを尋ね、在熱海内海内造に出状を
言し、出村一天中、是を尋ね、尋ね入加
賀皇三平と尋ね、前拙書を言し、末、石浦
一泊を、終つて、二泊、中川鏡と尋
ね、河内方、尋ね、定置、本社、橋本文
古、中河、中河、二合、論、尋ね、文、付、
河、是、終、二、中、一、也、と、尋ね、言、す。

字をいふと其のて其の村山香海とある上巻の
の巻の各家平論十二幅を交付す
新の巻は大方く余の巻多し其の巻に連
其の巻の山岳系山と終末巻之と題す
るを懸る一冊とすし余の巻末に
らう及ぶ寸あるこゝを懸るも余の巻二
随者として収めしむ也 雖波理一印
物を贈り来りて呼名巻の中 回者故
場今の体 二付来流 午後七修稿の時
を移す

十一日

二百廿日

町堀成三山田敬敷の簡す山田の末二巻
二枚あるき 京山と牧之の長編巻を
送り其巻の理を托す 土屋詮長其の早
大工手との校十丑内年 此巻は
二つも余の道徳後を托すし 午後四
中かたの巻 武多の代巻を二巻に托す
村山香海と川城芋一巻賜り来り 阪上
弘花の註釈を多く 修稿の巻を付
ふと出お給ひの圖書を遊り 初巻の物を

當り多し銀鈴二臺のさへき箱を造り石塚三郎
本流所得後継徴見の符列の今期四万九千四
也前期も若干の増額あり残り若殊二甚
しく午後九十二分より午後五時早連花
お遊に遊く、区内にも未開

十四日

時、春城遊者のほしあきの箱を坊の遊
こより其のあきを坊へ、山田教城二
中由福子より十時出取部の重役会

臨む、随筆の好も出取部と交代する
後早大の維持委員会に到し、今終り
田徳長とせし、永田竹大持大住友会
判り早連花おの遊戯と稱し持部
室に暫し時合後、四時半物色し外出
中流氏之より酒を贈る、又放送局
多田不二子より二十三日夜新山場、就
この海濱を需めし去る、未だ誤せず、
須美まもりの花を苑一更花を贈る、

十五日

昨今報列連の日本及日本人に余の寄附書既
大御座に届出大段在り。新主人之嘆と云し十
日間に載りしき寄附書の執事と云はれし書
心徳永存一書。宿、十時迄を待たず出遊方
向有。是夜と雖も天全に飲不余次四
店。瑞典皇儲妃に命ず。高知の伊勢
部を産居に懐妊を托す。梅もや記
返す。出版部と云ふ二憶事。編纂者
と云ふ印籠の事と云ふ二る用。更云。早大

もうの日早速花相告別式。次書。利来
夕刻文行書重を初。初定の内、百回精
入。臨別。到。中。林。拜。之。助。与。其。出。村。山。島
楽。も。其。出。

十五日

昨今報列連の日本及日本人に余の寄附書既
大御座に届出大段在り。新主人之嘆と云し十
日間に載りしき寄附書の執事と云はれし書
心徳永存一書。宿、十時迄を待たず出遊方
向有。是夜と雖も天全に飲不余次四
店。瑞典皇儲妃に命ず。高知の伊勢
部を産居に懐妊を托す。梅もや記
返す。出版部と云ふ二憶事。編纂者
と云ふ印籠の事と云ふ二る用。更云。早大

本侍三十時二分出櫃以桑備と述り
出櫃の後直ぐ由重も不其や、静放送るの
道満徳吾身より、茅原宗吾もしと申す
山田殿城くも原好長も来り、市村其精
も来出放送馬向此處の依託を断る
为一馬を重なる、松の尻杵の杵尾を
行して出放静く、田階より三時大橋
園音館に到り、園音協会の理より、今に臨
み今の昔、今に就き協議する、坪内道造、
か節を依頼し、今余か隠事は、かまきの真
利也といふも出放静く、田階より、松尾大陽よ
り余の投稿を預り来り。

十七日

雨冷、森陽、其功、三村大隈、彦記、其他二件
協議す、石塚、三井、阪上、内田の件、其の初
は、鶴巻、彦記、定八十田、交前、旅記を著す
雨、河、断、く、降、り、く、先、田、秀、久、阪上、二件
三村、其、功、夕、刻、雨、也、其、實、業、日、を、此、の、稿、本、文
ま、を、し、り、河、中、林、部、の、稿、日、著、書、出、版、を、断、り

二十二日

拂曉驟雨あり、感念の氣味あり、鼻水出
咳嚔あり、程村宗八柿瀬恂直法、形向
預定の由六る田引出ず、柿瀬の碑面、刻す
ハキ字、鉤勒を依頼す、夕暮、酒を飲み、時
以て以て感念と致す、一法あり、殊に三時
る、人を視察器とせし、余は不得款を世書
取し、あつた、税額の運、年を足る、見、考也
支那泰山、今刻、匠、磨、崖、字、の内、無量壽
圓の四時、振、本、書、高、社、と、郵、路、と、表、す

之んを、俗、り、と、ま、す、の、表、面、に、刻、せ、ん
と、す、也、高、田、孫、一、母、の、部、別、也

二十三日

雨、天地晦冥、雲霧を、散、り、し、時、に、刻、す、太
陽の、光、を、遮、り、し、て、平、野、を、心、と、感、念、の、地
免、難、を、感、念、す、也、山、田、教、師、の、地
位、難、し、也、今、の、意、行、山、東、高、山、と、岩、木、牧
之、の、長、扁、腰、會、成、刻、達、す、山、田、教、師、の、地
状、を、見、る、也、古、柳、道、垣、と、云、詞、を、託、し、置、け

早大に清心堂生部と云き高田時の子に
作らぬ橋手、雑紙をもちて、方田路一介、
香典為持をさす、楠瀬向の香紙をさす、
初、今、石塚より、月泊無花果を贈る、
未又雨

二十四日

秋香白雲祭

雨、晴、執事の子の芳名を考き、
了、森陽、楠瀬、可、楠瀬、
四字全、引、集、字、を、鋪、勒、
ん、こと、を、托、す、
坂

上、可、り、更、に、
送、信、可、り、
子、に、交、信、

二十五日

雨、感、冒、積、り、
越、理、其、西、村、
の、待、意、を、
初、り、
午後、
福、を、
信、

人之財産に物を歸ひ味美亭に歸して物くる。
高村其上人の女八人の後幸一と題する。

二十三日

日

頃今朝昆田文忠の幼少を臨去り可也
由候し客此新なる洋の物めを午由雲
を御頼し去つて和田前書を西片町書に
同じ同者堀屋を大政の御事件に候し
し七日も橋本長尾末部の日者慶五二
二の者を踏ふ山本書の巻、三十四摺入味

高村其上人の女八人の後幸一と題する。
七續書、題末又兩

二十七

頃高村其上人の女八人の後幸一と題する。
村宗八人の後山田敷城の巻末又山岸五の巻に
梅子の詞を得て程程友村二摺りより三つ四
傳入手形切給六十日間所得税四百九十六
目的付返出版部として時代史漢籍四字
解配本

一二三の書物も、作物も補足送るべき早
大いそぎに、花六の古物部を渡りて送集
才三回配本

二日

晴、高田より西村真次、赤坂、大田、千吉
山陽の巻の審定を済ませ、舟車
物を貯り、十一時、赤坂の物部へ到り、稀
奇種を二十種、血海、夕刻、(中略)等
と合納し、流す、夜、今、今、の田人の魂

赤坂を以てし、七物、(中略)評談社と余の
字の好、(中略)三張の切手も貯る

三日

晴、今朝、昂、吸、血、赤坂、(中略)急急の
辛、南を為す、赤坂、又、(中略)花部を
(中略)七、(中略)三人の心を、(中略)の
徒、(中略)土を、(中略)伝、(中略)其、(中略)を、(中略)出、
(中略)後、(中略)を、(中略)を、(中略)を、

四日

昨余の所得額に二千四百圓(知)算し、その
訂正を税務署より一紙一紙とて、江に投
ず、山陽新聞巻鑑定の結果を大田
君に教す。批評を寄らざる為の増補
葉、山陽を向田君に送る。吉田君の來法
大阪出張の報告を聽ふ。徳大寺君は
十一時神田に居る。二三の同方を招ひ
日本橋の井原の亭に飯を喰ふ。前河
来、山陽出張部より一冊配本、山本君の

二十の朝、雑報を著す。一七の陽に、

五日

昨、後村宗に出張部の件を來談、改上
以、前案の例の注財を多く、内政新聞
着に、中物と題し、石塚君の文、河野君
難を招き、第二階下の材料、捨出、時
を移す。午後印刷會社に、朝、書、とて、
又、大阪會社に、早大の行、渡、今、とて、
早速、整、尔、死去、に、付、後、任、誰、持、た、と、
是、奉、

し給本更考南送す増田義之と合記の
要件を考議もゆくり不在中大西院平
朝吹英二條記痛罵二行の事物水又下昆
田又二行の事物痛罵三行の事物助也予
日便ぬ、前同列の事物於山本也右も未
書、深更に眠をぬす、水鏡も後也、

二〇

而素脚大隈彦彦比の事大石院田余が
地筆印刷元を二の事柳瀬余公墨本迄未
字二の事素脚十時子出故部印章段八の事

臨必、改築あるも水鏡す、素脚英余の
立五十年紀念より七巻甚畧を贈り素の
録を筆し時を移す、故後久須美系
り梨栗大畧を更し、素の大校長友
未十号の大隈彦彦追悼會と山権
余の書の校を代書し、任常使と同行を味
す、此行此を核し、左侯侍記是の
と宣傷せんとする也、隨筆に
稿を懸心記し、時を長く、
素脚

七日

和久須美吾を杉山義雄に譲出と爲る事、人中
村浦一月梅、日清印刷會社の重役會に依
り、稅務當局に所得金額還納并、このとき希電
兼に出張部の証明書を提出す大隈義彦
記出の領布の法、其恒本七前迄西外關係者
と印刷會社の是る集議議す、林田の考據
を以て一二の者を懸念して、官給新三印
洋行賣補助増田義一五百圓出金決す。

八日

而、林田正平が偽証出ぬ、其未時方と稱し
協議す、官給洋行補助の以て定む附金と森脇
三交付す、胃腸病の爲に後漸やく、野矢に
向ひつゝ、其し、今朝亦略述す、太田の夫
身防より、其の豆等山湯の事、(三)是等
の病状のとき、其の病士と稱し、注意を促し
田原屋と稱し、其を懸念す、校友等
地権者等、病氣を又、其の事、二十日早大
で行く交付、大隈正侯傳記の序文の
あり、其し、其の事、又附帯する、其の事、

一がきこの部書と云ふ。而中浅草の浅公庵を
ゆつて二三の圖書を購ふ。教お山集代五十四回
物論、通官書つてく

九日

而雲相立、龍泉をあげし、大江乙亥の楠
澳、向身流、杉、玉、董、陽、こ、其、脂、代、を、五、十、五
酒、す、午後、克、を、伴、の、白、木、庵、に、物、を、購、ぬ、
赤、伎、湯、池、に、回、り、茶、後、の、映、畫、を、見、ぬ、
路、四、六、の、三、海、庵、に、飯、を、改、教、社、を、見、ぬ、

物、の、あ、り、し、謝、金、と、野、の、来、り、丹、其、宗、其、
より、来、去、夜、来、ぬ

十日

而、大隈、屋、の、傳、記、の、例、言、一、且、行、と、属、し、た、り、あ
更、り、改、行、中、田、通、吾、傳、記、の、件、を、来、稿、に
十、時、と、し、大隈、屋、續、し、行、を、印刷、會、社、を、設
故、海、邊、の、法、安、を、と、置、む、十、一、時、と、終
り、神、田、に、出、て、物、を、購、ひ、凡、日、物、を、購、し、て
ゆ、つ、高、橋、義、彦、と、い、ふ、年、の、古、田、本、佐、石、碑、の

拙本を贈り来る。畿内一麾の浮世傳十八考と
讀み、深夜眠るを又十八考を讀み終る
六のこり。

十一日

政村来館本を著す。内田直也、未簡
正千大隈合銀、田中徳頼、難波北、中垣孝嘉
以馬素陽著と今、大隈著傳記、宣傳
を白紙来月初旬大隈著近傳合を著
く、傳記其の方法を協働する。高須著

次中を著き傳記并附録のほ、かきの筋
方を交付し、其の筋を托す、大隈著傳記
刊行合、つき細目と頃本経打と協働す
又合社の案件、三月十八日、田中協働三時
迄歸書。

十二日

昨日日本の鋼橋集を出版せんとす。あつ
題明も、山部多志と其の文の協会より、二言
田借の、高須素治、并傳記并附録の序

言ふ所の腹あふを授く、武者金去、和四恒都
揚士の遺事、数冊を回す後、空の船、舟、舟、舟
干後、華族、令、彼、三、文、明、場、合、の、時、向、臨、六、九
令、を、ひ、く、く、二、ヤ、ム、公、使、木、久、流、平、と、後、藤
頼、大、守、の、講、演、何、う、六、時、令、を、閉、つ、大、改
放、送、切、合、長、伊、達、俊、光、より、令、公、國、西、行、を、授
とし、清、流、の、放、送、を、任、務、し、来、り、大、改、の、是、年、
定、申、の、日、山、本、に、就、じ、云、々、の、出、札、到、り、山、本
書、店、早、大、等、三、四、来、書、故、口、連、藤、心
尔、の、遺、令、下、直、り、云、々、大、改、令、彼、に、於、て、回

守、の、書、下、り、を、遺、子、に、賜、り、来、り、大、改、出
張、秘、費、早、大、に、是、書、願

十三日

時、大、改、の、伊、達、俊、光、一、電、報、を、以、つ、て、放、送
を、流、す、旨、と、告、げ、流、送、切、合、の、時、
流、と、定、め、し、一、送、り、廣、井、一、守、功、長、の、方、流
一、と、云、ふ、能、報、を、奉、り、回、者、俊、協、令、を、
申、月、十、日、に、三、日、前、大、令、(百) 報、到、り、年
後、又、能、報、を、奉、り、京、都、後、公、代、官、を、以、

三時を待てて出立し物と好む松
妻と好む物と

十四。

時、木麻脚鈴木洗司年々大隈侯御記刊の
令旨甘歸還す。程打山久江馬本奉季三十五
代代記部のを運築物を先を徳海二
あめ掃蕩す。大改の山林儀に申す松口
を贈りまふ。尾上八郎の平あ朝の芳儀名所
先を讀む。午後秋時、乗し散来、神田之店

二、向末右の人玉層を講、石工依久胡
墓の自園の玉燭竣工を報し来り
御作相上段(末二冊)三、寺高橋義彦
寄贈を多く、異回其意考の購後に出
由、其為義彦、出状を呈す。

十五。

時、大改、放是す。活流の腹おを心
上、若手功例の如く注射を多く、巻山
三、若田義彦、早大三子、校、到

五十五周年記念として紙のユツゴを贈る元也
傳せし物を橋本生に物と贈ひ其美に酒飲
し七物了、今般大坂、出立るにつき物書後殿
其を湖の、丹号原平に此物と贈る、六時半
停車場に向ふ、芝系に右橋脚又美し、停車場
南へ行く、七時二十分の急行に投し其を、橋
台へ入る暇也。

十一。

雨七時半、大坂着、其あお新あや、入るる

花巻旅館に投す、大隈彦明、新着同也
花巻三喜の、大隈彦の訪り、余が定まる
文連義、今朝の分九回、及び明日の定
法あり、不承横田耳、午後一時大隈彦
とて、天王寺の一心寺に到り大隈彦彦の進
悼念、臨む、霊前に早梅の大をみを代意し
余一物の法説を為し終つて行儀、何の日
法生、命今世に到り、校友の二重まらるる
このを念し、大隈彦彦、徳地領寺の方面
を帰嶺し、同也、校友の追悼會に輪施

しつ二十物産と字あふをひらき、席上大隈
房のりけんの追憶話に合をて信比海島
の経道を演説す、畢つて大隈房外二三
の校友と大和屋に利り銀古、所能決
諸洋更死家、ゆり所更、伊達俊光。
の訪つてを又々、

十日

吹上崎鴻志今井豊一と出物とがなり、副此
ハ止し分り、大改相の形々、根えんて其の
新又長光を勸え、十時半放送局より

迎への自働車あり、直ち三浦長崎店
の屋上にある放送室に到り、新又紙の苦
詠を三十分放送して悔ふ、伊達俊光謝
礼、未だ午後二時石原義三の迎へん
大隈房と、此に甲陽園に接する松糸の女
将校書三四を卒くして往り、甲陽園ハ六甲
山麓に止り、期什字の電車を
通し大改を約四十分かゝり、新又店路
家の支店あり、故榎風改ち、まゝ入
り、一回敬東山を五六所登り、揚子の

家：欲む。故今後大井：誘て高田へ：
務飲十二時於食く過る。明日大隈屋
日付動和歌浦：利ん為め一日白
を返す

十九日

昨今朝又早多事電報をせぬ此は新
和歌浦親志の為め大隈屋と丸に
波の停車場：引り横田流しを復んせ
海電車より七時止る車中 中井流し

今更なる電車：喫茶の政付あり
便利もつた。和歌山市一時百三十分
和歌山港船が往く。地より和歌山駅
下車。教員も去る。久一校友十数名
出立。此は自動車と記す。新和歌浦
北間十五分計。二つのトンネルを
達す。伊海橋へ入る。眺望あり。直
陰の城の：似て美しき大なる山
て美しき。八九年。前山を築つて
めを交通いし。今和歌山市に附属す

この大法はさういふに比まゝの和死海にえらま
是れ對して午の御膳に校友と共、酒飯
を共にす。長き御膳の席に校友の
酒を酌む。席に南方常備あり往年
余大隈房に代り其家に醸す酒を
世界一統と云ふことあり。瑞々しく
若んて流る。余身に乗して酒の沈草を
後す。世に井田表ありあり。こゝ南地
若及の酒も家より余に謝しと云く酒
に就ては先生に奉る音の先輩也。若ん

南地も若るなり。酒を以て飲ぶは
二及ハすと云余一矢す。三時よりの電
二投見りて即ち御膳を出り。今最時停
車場と見え。未だ去るに候。又紀念
とし和歌山史を贈る。五時難波に
着。一旦旅舎にゆき。衣履を改め。衣履
善。この扱き。衣履の心。高橋の橋。半
に利。吾等の語。府知事。中川。内務部。長。府令。滋。高。業。合
紙。不。今。類。校。友。若。干。名。扱。り。ん。盛。山。也。と

沿の南北の名姓も数来り。富知事も亦も
と松島に轉領一時は旅舎、此も不在守
下村に於て一未也。

二十日

昨今朝九時三十分の特急見大隈彦とて
大坂を辭し、向東の途に就て中州の校交す
敷南北の校者も敷野頭迄見あつた。其の
連日関係の料地元等も物も目見えし。未だ
もの多し。車中村山龍も、今も、長理

車中、大坂を辭し、向東の途に就て中州の校交す
と今も、車中、向東の途に就て中州の校交す
閑院君の乗車、向東の途に就て中州の校交す
直に物も、不在守、各所も、利達、の御色
権を為す、大坂毎日、朝、向東の途に就て中州の校交す
全る目と、美し、未だ、敷、向東の途に就て中州の校交す
一、花、花、を、向東の途に就て中州の校交す
山形、向東の途に就て中州の校交す
印、向東の途に就て中州の校交す
今井、向東の途に就て中州の校交す

二十一日

町、又江東一町、代埋部を丸巻く、徳の
海への件、清定を教へ、奉歸、奉治、清
傳、記、直、志の方法を、堀、瀬、河、平
久、余、成、志、志を、合、字、句、勤、の、よ、成、り、
坂、口、献、去、り、来、り、印、二、顆、事、の、井
光、合、の、刻、を、囑、り、無、量、壽、圓、の、振、本、を、掛、物
こ、ま、る、者、表、表、を、補、助、に、依、頼、し、て、出、来、
新、賣、田、石、工、作、入、同、出、つ、吉、一、墓、志、屋
本、を、郵、送、す、延、谷、位、主、一、松、屋、子、も、送

え、なる、あ、い、と、あ、い、り、高、松、の、三、井、田、三、し、
よ、の、松、花、の、山、陽、房、山、雪、多、事、才、堂、(平)
の、言、ま、し、つ、を、贈、り、来、り、坂、上、弘、卷、次、の、儀
時、枝、の、あ、り、の、故、廿、九、の、奉、回、(平、心) 列、の
看、必、漸、中、尊、と、離、の、天、段、七、林、願、三、
即、京、都、神、乐、江、志、三、名、一、物、を、贈、
え、ん、の、清、心、を、ゆ、ん、り、午後、子、福、の、子、
報、の、編、釋、又、合、井、一、即、来、極、者、合、別、在、の
柿、車、一、為、刊、達、別、山、ハ、十、六、も、亡、長、少、の
紀、念、冊、子、を、贈、り、旋、り、中、の、能、事、を、業、す

大坂の放送局より余が放送の寄金を記念として送られたもの

二十二日

答

昨、友添保山陽の書牘を携へて来た。廣物と
宗重宅へ、徳永君一中の函を来たす。楠波向
書物社へ王五川雷平と付ひ書す。随
筆の書物を出致す。余の指道書をせし
む。古の分譲しとある。徳永君を著しよる。
日清印刷会社の佛入道に宛てて十一月

三十日七日の五日より長く、新書園林又河井
君より五十の函の形意の石印書二五項を
寄る。二枚とす。大隈侯記の書物
士の序文。この米を施す。又隈侯の書物
二枚を以て。白鹿の持巻。三大箱を贈る。
送文の出来おを贈る。

二十三日

昨、高松の三井商會の書牘を携へて来た。大坂の
石原義三の横田派の書物。下坂中

翰旋歎待を謝し古紙を尋る、松紙の心
随草山陽と直造の名紙書きをよこし
老す、未如の人ち木森市高森昔風を
華山陽を讀みも益を得たりと稱し且つ
鴨尾の通る事と報し来る、十時登校田中
現る難波静ると二三の要件を協議し
尚科たる創設早稲田大との改称あめ
りも元初めて出版部と主事、神田二回
り二三の通る事と報し来る、十時登校
田中四冊配本を交り、校友版洋並らるる

三冊の書物四冊集り書きをたかすへ
と大慶也也、夜半夢よめて前田陽山の小説を
讀む

廿四日

日

明日、種村三三の出版部新築の回を
高橋くし来る、余の意見は何れもある、
印刷会社より編者通三三の博士の媒の
ていへる地、美の事と云ふ、
尚方名社の編輯部と云ふ、
植原

多人時言とありし山陽新より近刊二種配本
を受く、亦須菩提の指記序言の指を述り
来り

廿六日

昨、柿嶽薩原奉功三行過兼、兼原奉功の書目
初より時を移す、兼原奉功の書目を述り
おる、午後柿嶽薩原を述べ奉り、早大圖書館
に到り、其指記を檢し、夕刻迄、二十五日
檢出せし、早大に、大改出法改書追加六十

田邊の書目、依久間共書目、奉出村山書
浦平功、前月余の托し奉り、書目檢査
却未だ果さざること、きき云ふ、余が
大陽の書目、奉出の別荘、有りとの、
十一月朔、掲出、未知の人、石川、大聖寺
清水、鯛二、余が、大改、毎、日、兼、原、奉、功、
二、つ、き、未、出、後、上、山、陽、新、指、記、
切、午、二、十、日、贈、り、
祝、し、

二十七日

昨、依久間共書目、兼原奉功の書目

長房傳記宣傳法のの禱し一時的に大改
令館の中の書庫と令し大改を遣るを念
寢を令すをつまりて二つ重しむる為に目を保つ心をりの氣
恐る事をつまりて二つ重しむる由に御してゆく事は
令細に度を二つ後ともを而も令しる事は後傳
大改放夫の由を賜ふる事は龍利
達

二十九日

雨、往村家八山田志正改上山花補潔拘

交りては子を給ふ楠嶽：鳴しては内を并光り印
二敷去三八十一時出改部：三重の事四とは部
格を二重す。三重の事四とは部
二決す。三重の事四とは部
七ゆく。山本書庫三十日拂入五時光
を付けて改上山花娘の結婚枝を取の
案：三重の事四とは部也大改放是
向り謝状列す

三十日

の三人令に依り、改上必死の難事休く本意
業より事の挨拶に奉る。西書并共、頼りて
味崎十母より刊達

○十一月

一日

昨日朝来旋廻をせしむ。日中茶寮
とせし六七の茶寮の茶寮の午後
二飲酒の能と解く。午後茶寮を
早速整へる。遺子と物と贈る。舟兵
康平、郵をせしむ。

二日

昨日朝来大隈侯傳記を再校し、洋書
九時より。此段部に別り、請義保海軍
一回を令し、請義保の前途を協議し、
是より、此来請義保の不況を、有るに
余の運命を聞振ある。大に考り、
し先づ此令をいささき也。森脇大隈
傳記の事、此傳記序言の好を、
一回の、此の好を、朝次英二の
送書を、此の好を、大隈侯の

四日

此今朝本橋脚とて、自動車とて、大隈屋
とち山に、此の老侯遺物展覧会の手を
協賛し、往々のものを借入ること、
十時能去早稲田の別邸に、金子夫人と
を、同一の件、借入を、
の、
果至本を、
母宇都宮、
邦と、

この、
し、
村山、
し、

五日

此朝、
法隆寺、
法隆寺、
法隆寺、
法隆寺、
法隆寺、

投書の出状列る。寺崎元重と物と
贈り来る。近刊三冊出版部と配本

七日

市朝平満地の故葉を掃ふ。旋報を奉
す。市地雁を中し。謝状列る。田人の境名
病氣と貧乏窮を故元為の表す。の願金
を老し。ひらき。也。市須芳次り。早大出
版印海長紙改正の事。を述り来る。午後教
果神田の二三品店とゆふ。茶千の圖書を掃

八日
六月、細川、十四日、抄、抄書後、水説と、後、女、祝、二
入、

八日

晴、市村、山、ち、り、大、改、換、の、進、之、の、甚、因、
新、七、寺、崎、元、重、高、橋、義、彦、依、久、
同、其、古、之、出、状、を、見、る、市、田、村、出、品、目、六、
の、茶、箱、を、持、来、冬、又、辛、合、敷、と、主、の、大、江、乙、
高、橋、義、彦、八、年、一、年、法、前、橋、義、彦、大、隈、義、彦、
抄、寫、板、の、信、が、き、利、る、十、時、日、市、朝、平、満、地

の重役會に臨み、増資并補を要すること
とあり、大隈房遺を存列會の件を行政
本増回と仰譲あり、大隈の在厚積回と去
電を別し、口不林六の校友會を廿二日
繰上げんことを要求あり、故に大隈房遺
並存列會を催すに併し、繰上げの必要あり
一時出納部の中役會に臨み決り并
協定中、期利益配分二割と決り、代
理部は、繰上り株主、割戻を決り、五
時神田の神境由、開花格、固者、彼

九日

協會の存続をめぐり、いささか、少くも大
令に附するべき、諸事をも協議す。
昨朝、身籠保をとり、大隈房遺を厚
意の寄附状、行政印刷不、老々、官印、厚
浪来稿、村山、島路、と、能徳、銀、鈴、三、部
を寄り来る、村口、書、店、と、喜、の、代、士、冊
成、坊、印、用、集、を、攝、ひ、入、り、高、須、芳、治、印
と、居、後、今、う、へ、さ、さ、身、也、芳、浦、務、人、切、証

石巻民衆(公使有平山を主として)有利動
らう十吉(板美術)但(楽部)余の(許)演(と)需
め(来)之(派)了(、)偽(記)完(成)三(つ)々(、)偽(身)関(係)の(人)
を(招)持(し)し(、)今(を)ひ(く)く(の)き(、)あ(ま)の(状)の(下)東
を(作)り(、)又(の)場(を)く(、)回(付)。(福)光(通)三(偽)大(間)其
古(を)も(来)出(、)五(時)上(回)物(表)の(軒)。(柱)け(る)牛(村)
良(欠)の(吹)流(今)。(心)を(偽)記(を)受(入)三(月)
大(隈)産(業)者(の)新(後)状(の)形(を)草(草)す(、)後
田(淵)と(り)し(、)十(年)出(、)物(子)也

十一日

今(朝)其(時)植(造)り(、)ら(、)法(物)一(つ)れ(、)お(る)形(を)
く(、)事(田)係(者)校(友)と(共)つ(て)大(隈)侯(偽)記(を)云
々(す)る(中)又(の)山(向)あ(る)を(心)の(九)時(大)隈(合)
領(に)も(り)遺(物)陳(列)の(區)劃(を)檢(査)す(、)此
日(圓)考(究)大(合)の(初)日(を)心(、)後(を)合(考)
す(、)時(大)合(を)ひ(く)く(の)き(、)あ(ま)の(状)の(下)東
を(招)持(し)し(、)今(を)ひ(く)く(の)き(、)あ(ま)の(状)の(下)東
を(作)り(、)又(の)場(を)く(、)回(付)。(福)光(通)三(偽)大(間)其
古(を)も(来)出(、)五(時)上(回)物(表)の(軒)。(柱)け(る)牛(村)
良(欠)の(吹)流(今)。(心)を(偽)記(を)受(入)三(月)
大(隈)産(業)者(の)新(後)状(の)形(を)草(草)す(、)後
田(淵)と(り)し(、)十(年)出(、)物(子)也

度備紀完成は日一坊の室係法統を為す
午後出取部と主守の金毫千の借入
令録に午後引つてせし御多あんとる欠席
六度身族の令録に柱を又の坊の御
令あんとる世に欠席し、辰時在備に
たしきか故也、又以算一馬後、十五年
史内容完を本の出来先の回考附大
令出度者、令の、神四、出、二、三の回書
七婦、徴税票利、前月税務者、違違
を指福、等、麦波せり又、誤、并、の、依、利

素

十二日

時、大隈侯の十五年史度出の、真吟杜のり
出取部、お柄徳永、あ、一、馬、了、令、利、の、あ、の
あ、の、後、了、る、給、り、大隈侯、御、と、る、陣、列、の、り
と、董、す、の、午、部、下、各、お、り、此、の、記、を、お、さ
し、の、陣、列、の、り、を、振、起、し、の、午、部、を、何
し、の、り、令、ま、る、の、備、紀、信、の、考、如、ま、に、付、説、く
所、あり、午、部、を、陣、列、を、董、し、お、り、入、る、が

まつつけの家のついでに下打のついでに
先をとりまゝ又江戸に
見せしむる所の自録に
世々の傍に附録らんハム不載者箇(大
つけの原紙出来次第のついで)

十三日

昨朝来能記をききし横瀬城之と未成字
高亭系流中川柳外も自書出陣日記を
奇と来し尤侯傍記の首端にねらへる余と

中世礼の一日席下本洪に改行せしめ
この成り本印刷く四行す大段後田記
三印に云執をもち大丸陣列の前列に
少記看取の事執を執す午後陣列
場前列に今朝と入場者多し
云漢も列をもちし時停於其況を
大段大丸もと左條久事馬物に打合の
日来る程の編演の末林三言も大段
今ついでに決し陣列のついでに
す四時とすの生未しに張依今の程

二十餘名を招致し、彼等も後身は竹垣次
一司と名乗り、事をもつて、此の事、高橋義
彦、とて来出、聖上の命、為氣漸く重く
大坂の陣列、今或は、形勢とまて、やと氣
老ふ、

十四日 日

病、朝来、早朝、日、言、報、く、の、投、筋、を、ち、き、如、め
乙、五、頁、に、及、ぶ、梅、瀬、日、年、越、き、の、選、集、に
の、七、年、法、十、一、時、大、隈、今、後、に、判、り、事、を、記

十三時、今、坂、の、合、戦、に、侍、江、國、侍、者、を、招
待、し、大、隈、侯、の、旗、柄、に、力、つ、て、余、も、は、備、真
の、経、道、に、精、進、先、ず、武、才、中、三、郎、西、久、保、外、十
郎、忠、康、今、合、二、時、も、大、隈、无、差、に、候、不、意、
冬、方、面、の、人、々、を、圍、方、破、滅、功、立、に、合、し、大
隈、侯、も、侍、臣、の、投、宿、を、き、し、許、し、合、し、大
経、道、を、這、渡、し、侍、ら、屋、邊、合、の、手、に、取、り、
終、つ、て、一、日、を、陣、列、せ、り、あ、ま、の、さ、ま、今、合、約、る
七、十、名、今、の、陣、列、場、に、入、り、す、あ、ま、の、約、三
十、人、四、時、候、を、閉、づ、り、大、丸、の、東、條、と、大

坂方面陣討、孰し打合を為さ、又兼陽中
に高須と大坂直徳の争を打合相、今
由事、山田發城より先出有、此日印書
云しく前田祐士を招ぬ、此書の後
酒次もりの相渡す、高坂直徳もさし
兼、術、城、河、の、為、の、不、成、止、の、事、在、り
と、兼、家、人、云、く、困、即、す。

十五日

昨、凡、相、来、早、宿、田、子、報、空、の、ま、さ、し、箱、を、兼、ま、

廣井一初、此、形、多、難、こ、の、ま、さ、し、箱、を、兼、ま、
寛隆も未、汝、物、を、贈、ら、ま、三、川、の、形、兼、隆、
り、食、肉、の、小、倉、を、贈、ら、ま、午、後、大、隈、分、
二、判、ふ、今、日、長、巻、合、末、終、の、日、也、横、田、
三、印、く、兼、忠、を、送、ら、ま、今、日、長、巻、合、
さ、ま、の、固、体、多、く、今、坊、能、造、を、相、渡、二、三、の、
を、兼、し、て、去、り、神、田、に、一、二、三、を、信、の、
今、日、兼、隆、兼、忠、未、汝、の、田、倉、分、に、
領、す。

十六日

時、余が所得税誤集集のとき税務者掛
会中の要漸やく訂正の内通知を得、早
稲の言報く定のまへに稲十五枚校正す
往を編輯し、四時十時大陽分館、出版
列の残物を整理し、原本嘉流馬と書局官
に送り大改修列の多行舎のまへに
版あり、備へる改修早稲のたふすお記集
り大改修房住記のり、改修のり、まへに
筆記せんことす、任か七二時の改修を
保ちし、三時三十分、改修のり、出版部を

世界全集のり、并ぬ本才一面記本を
高須梅江のり、細前吉のり、郡立
ヶ崎お重並定のり、平度寺住職一島
義成のり、まへに余の家系、つぎ
の細書到る、能保とまへに、
合

十七日

日、電法相拂入、月末印刷舎地、
込むべき株金千三万五千圓の内、
拂入、四六税務署、所得税誤集集、

二十日

晴風の感胃の氣あり名早記、葦硯に
親の御位合寄生休居持其後服部
耕石某流、此冷句陣之附金十内附
部、交付味冷の句柄と賜らる、市河
三陽も来去、改上此花昂に江敷を施す為の
ニ来り、城上免疫研究所の建設に其し城派
して去る、又報社の屋敷校に終り面付
代記部解散身出賃刻戻三る廿五日飲
叔小江電一も流遊保を兼りて平

田内子に交付、五万圓の計り、預け入の分立る田所
得税先也今夜大改に出方せん、一行本を
調の、又忙中、小山巻、利助十も、前日待
演の謝金三十圓持矢、携瀬極之、も
預り、ある、此田の横巻を交付、先自觀
車、二日乗停、東條、と見及り、其の九
ビルの、中山、力、三、三、青、徳、中、籍、歩、年、の
頼、山、湯、を、婚、つ、七、時、二十、分、其、車、

二十一日

時、咳嗽の爲三時を眠覚の終、天
の、此の京都の、夜明け起床、公事
契、此の七時大改、着、是の家、投、す、
時、先着、の、森、脚、高、須、他、の、旅、館、に、宿、し
あり、方、須、功、ひ、す、あり、大丸の、車、俵、久、舞、馬
陣、列、打、合、の、為、の、す、あり、横、田、渡、り、と、い、ふ、
也、九時大丸に到り陣列坊を、見、ふ、森、脚
陣、列、の、指、押、を、為、す、余、高、須、と、い、ふ、
あ、土、川、唐、山、寺、店、を、訪、ひ、先、回、下、改、の、お
の、也、お、た、る、日、拂、交、り、二、三、旅、出、を、
し、

ひ、午、時、住、居、所、の、灘、業、に、終、一、夜、お、お、
悔、く、る、横、田、渡、り、馬、込、の、後、五、午、住、居、橋
住、居、部、に、校、友、の、新、部、振、付、し、り、り、決、ま、す、三、時
再、ハ、大丸に到り陣列と、習、す、五、時、大、眠、了、
太、社、新、の、記、を、追、と、来、ふ、余、と、一、坊、の、振、付、
を、為、し、陣、列、坊、に、あ、あ、向、一、説、せ、い、の、こ、後、
陣、列、坊、と、通、り、す、北、日、有、力、り、す、お、お、記、坊
し、来、ふ、陣、列、坊、中、の、皇、宮、に、倒、す、こ、の、的、
り、多、く、取、得、し、と、思、ふ、思、ふ、校、友、出、出、の、
記、者、あり、一、考、と、い、ふ、了、り、問、答、し、り、石、原

横田森脇高須と松並に對り往々協議し
夜間の遠列を止むることとし十二時迄は
高須を伴ひて松並の物置に今宵三かゝり
洋一云々

二十二日

夜を更の朝日毎日時吉皆大隈岩崎記兼藤
列の伴一巻しく揚載せしむる事師高須と共
に注目の打合を為す、伊也後迄：高須を
しと反送せしむる事と托す、約晚十時の沈
車をもゆきと決し夜を更をともむ下村心太

即兼都より未改余を訪問し来り辰夜合
ニ竹野間打合特別招待合等と関し長
時間打合を為す、柳原者左主石田松太
一と去る三時大丸に別る今日定休の事
昨日辰夜合子合初の二時陳列に托し
癖下と陳列場を元とす設備成り者高須の陳
列と始む、一と検測して夜合をゆへる事
睡眠不足を補えとし、曉の夜三三夜

二十三日

三時既完む、拂曉雨降り、五時起床、施
祭を奉り、九時大丸に到り、所収深更行列を
果せり、一とを行列せり、下村山大寺、京都にも
来り、特別お給儀、今日三十日と定む、開場と成り
観衆利州、小室多くの人と定む、殊に、
二出名の前、主の観者執着多く、時分と費
す、と以つて多敷戸にお、清信、午後、施当、
お給し、十二時、石原、美、
信濃橋、
校、
年

お給し、
一、
後、
本、
木、
出、
和、
今

大坂日、関西日報おんんてきんてきん大隈房高記
と長崎今を詳記して遺憾なく、暖言此輩の
勢九所為のつ互酒と流る、因崎正也の別
室に在る今も、十時十分の汽車に投ず
石原某の和衣のりて送り、停車場に來
る

二十四。

一睡天の利り物るを駈るも替さる車中浪
六の道着るを漢必無聊と感す、十一時半

切手も、十月廿九のウエニス高宮の形、この
道心利り、大橋新ちり、と井の形、桑畑
の道、内利り、四公後、松島、多、税、新、行、心
中、村、崎、寺、り、未、出、久、未、邦、武、り、祝、心
物、来、り、廿、六、日、中、井、綿、城、道、掉、合、の、道、心
利、り、所、得、税、過、納、拂、戻、求、り、の、ま、り、十
久、江、某、一、三、依、頼、心、を、是、の、ま、り、二、特、大、隈、合
館、に、利、り、決、割、協、助、税、の、委、員、合、に、臨
む、其、の、内、田、中、金、子、本、雅、波、出、席、余

奉安寺に推せん、清利坊物候を設けりき
大徳教を奉を評決し、法書教令を

二十五日

所、リテ、セテ、口、受、其、法、平、三、年、三、百、三、十、の、修、え、り、き
別、多、拂、戻、の、祝、金、平、三、年、の、為、の、文、三、を、四、谷、後
物、器、を、老、す、素、師、以、次、由、原、目、物、法、取、の
敷、出、を、り、七、去、り、十、時、之、先、を、付、め、出、遊、
神、田、の、方、村、を、功、以、村、の、方、村、に、八、十、日、拂、山
い、者、た、く、三、十、日、拂、山、に、一、二、の、物、を、置、い

向、未、尾、に、其、所、を、修、め、三、十、日、の、拂、山、松
五、に、飾、し、物、候、法、書、候、田、原、を、上、寄
物、志、大、改、を、海、州、に、日、會、敷、未、あ、り、ま、
二、万、日、候、に、物、候、入、る、夜、未、由

二十六日

時、大、改、の、横、田、新、三、年、の、道、電、を、置、き、
村、井、坊、の、三、万、日、會、金、大、修、り、方、に、
新、采、按、官、に、招、え、ん、等、に、ま、き、祝、物、を、老、
す、横、瀬、跡、之、其、先、代、の、自、言、本、義、千、七、修

世帯贈多中入珍奇のよ敷冊あり、花巻と
為り、是の、本百健四のりし、追刊恩免集
遺言集を贈り来る、程村宗八出版部の
要件、二月七日秀英舎五十周年紀
念、歌多夜座、祝ふ、課後誤集、
下戻しの要求書と、四谷税務署へ提出す、
今夜法会、秋多、橋上、於て中井錦城の
追悼人となり、余も、入る、或る、
く、あし、か、復と、あ、ま、ま、二、月、東、遠、郵、便

の、新、は、春、成、階、茅、の、麻、糸、三、卷、文
子、自、ら、贈、り、是、し、七、押、子、勲、利、者、有
大石理自、の、間、し、七、校、正、の、心、催、徒、を、為
す、東、條、久、壽、馬、と、来、間、新、石、理、自、三
部、と、新、舞、の、解、来、と、鞋、紐、を、贈
来、の、感、冒、日、未、益、へ、す、早、く、臥、す

二十七

時、感、冒、未、愈、へ、す、日、本、郵、船、分、社、と、記、由、金
利、大、石、理、自、春、成、階、茅、校、会、の、件、こ、り、ま、年

城二間夫内田毎尾二海出を成す間
中難保を養ひし多収亦は誤録を誤正前
田公寄家尊任因に於てはしうく復知えん
今古勅本古往拾遺の字写賜を得たり
二間も大隈彦二投し七其の轉施を祈
ふ三四の難保列す

二十九日

頃素より高き方須芳次郎の傳とよき列又
素師より伝感留未念へさんか出取部の

要件に付九時日野に於り講義は不次回
後葉の(り)前回に引續拾遺の末先の中
葉女子高葉の三科を半年年短縮終
末月之回分割つて(り)の(り)を合冊一回
と(り)を(り)と決す(り)を決す(り)の(り)
神書(り)細表に據り(り)他の(り)の(り)
改(り)二(り)年の(り)を(り)する(り)の(り)
二回合冊一回と(り)す(り)の(り)と(り)一(り)
と(り)決し(り)及(り)神(り)海(り)深(り)主(り)に(り)か(り)協(り)濟(り)
其の(り)諫(り)解(り)を(り)得(り)二(り)時(り)由(り)宅(り)道(り)途(り)選(り)集(り)

立田配本大橋新大印... 感冒漸ゆく快今日午後... 七也

三十日

所
得
税
納
付
内
總
額
三
万
七
千
二
百
三
十
三
匁
細
目
如
左

二万六千八百十九匁

五千四百十匁

四百七十匁

所得税
府税市税
町税

九千五百匁

五千一百匁

九匁

三四七十匁

七十五匁

十四日三十七匁

十九日七十五匁

十四日四十四匁

三十四日五十五匁

片山上村校用... 其... 山...

町税

所得税

町税

町税

町税

町税

町税

町税

町税

湯を好む、田代亮久野を奉養午後閑を
得て才二春城地著下の病を整理す、其時
より嘉永の初より三人合に臨む、久須良永三
卯辰也

以下全て

白紙

